膵癌、膵管内乳頭粘液腫瘍（IPMN）の間質における Podoplanin 発現についての検討

・はじめに

膵癌は見つかった時に手遅れになりやすい、極めて悪性度の高い癌です。また、同じ膵臓の腫瘍として、膵管内乳頭粘液腫瘍（Intraductal papillary mucinous neoplasm, 以下 IPMN）は、癌の前段階から癌化、さらに大きな癌となるまでの経過を追うことのできる腫瘍です。最近の研究によって、膵癌の悪性度の高さは、癌細胞だけではなく、癌病巣に共存する、線維芽細胞による影響も強いことが分かってきました。

Podoplanin（ポドプラニン）は、膵臓癌以外にも、いろいろな種類の癌や線維芽細胞においてもその存在が報告されており、その存在の有無と癌悪性度や術後余命との関連も多数報告されています。

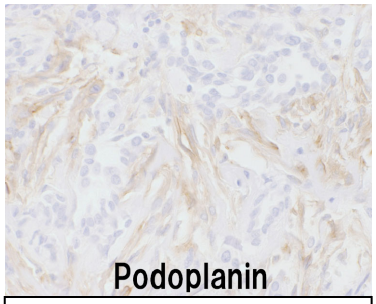
私たちは膵癌における、Podoplanin が発現している線維芽細胞と癌の悪性度との関連を調査することにより、それが治療目的となり、生命予後の改善につながると考えています。

・対象

九州大学形態機能病理学において、1995 年 1 月 1 日から 2011 年 12 月 31 日までに病理診断を行った膵癌、IPMN の手術で切除されたおよそ 200 例を対象にします。

対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

・研究内容



膵癌内の線維芽細胞における Podoplanin 発現（免疫組織化学染色）

① すでに切除された膵癌、IPMN のパラフィン切片を使い、免疫組織化学染色を用いて病変の線維芽細胞における Podoplanin の発現について調べます。

② その発現の増減により、癌の悪性度（大きさ、再発や余命など）との関連があるかどうかを調査します。

③ 共同研究先である、九大病院臨床腫瘍外科において作成された、新鮮切除組織から培養して得た線維芽細胞を用いて癌細胞の浸潤能増加など、癌悪性度上昇への寄与について検証します。

④ 線維芽細胞における Podoplanin 発現が増加する原因となる可能性のある周囲環境（栄養状態、癌との共存状態など）について検索します。

この研究を行うことで患者さんにとって、日常診療以外の余分な負担が生じることはありません。

・個人情報の管理について

形態機能病理学において、患者氏名およびカルテ番号は消去され、代替する登録番号にて連結可能匿名化しております。この際、登録番号とカルテ番号の対応表のファイルにはパスワードを設定し、形態機能病理学分野内の、外部と接続できないパソコンで管理します。このパソコンを設置する部屋の鍵は、研究責任者のみが保有し、入退室を管理します。このため、第三者が、当分野の職員やデータベースへの不正アクセスを介さずに、直接患者を識別できる情報を閲覧することはできません。

ヒト線維芽細胞の供与については、当院臨床腫瘍外科において「課題名：固形癌における腫瘍形成性、増殖性、浸潤性に関する細胞集団の分子生物学的解析」として術前に十分な説明とともに同意をいただいた患者さん病変部のみから作成されたものを使用しております。その情報は、当院第1外科のホームページ(http://www.med.kyushu-u.ac.jp/surgery1/)にてご確認いただけます。

また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

・研究期間

研究を行う期間は承認日より 2014 年 3 月 31 日までです。

・医学上の貢献

本研究により被験者となった患者さんが直接受けることができる利益はありませんが、研究成果は膵癌、IPMN における悪性化助長原因の発見、及び新しい治療法の発見の一助になり、多くの患者さんの治療と健康に貢献できる可能性が高いと考えます。

・研究機関

研究責任者：　九州大学大学院医学研究院　形態機能病理学　教授　小田　義直
研究実施担当者：九州大学大学院医学研究院　形態機能病理学　准教授　相島　慎一
九州大学大学院医学系学府　大学院生　進藤　幸治

連絡先：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1
Tel 092-642-6063
担当： 進藤　幸治